

# 2004年ひとりさくら道

(2004年4月30日～5月1日)

山猫@滋賀

## 【はじめに】

2003年9月、「さくら道270kmウルトラマラソンは10回をもって終了することにします」との案内が来た。2004年は99%開催されないとは知っていたが、もしかに期待していただけに正式通知が来た時、ひとりでさくら道をGWに走ろうと決意した。さくら道270kmウルトラマラソンが終わっても、私の中にさくら道は永遠であり、またそう思っている方々も多いと思う。萩往還という選択肢もある。しかし、私にはさくら道しか考えられなかった。コースを検討すると岐阜の長良川鉄道・美濃市駅スタートが暑い市街地を避けられ、さくら道らしくなるところで、ここをスタートにするとルネス金沢までが200kmあり、理想的と考えた。一晩で済むので肉体的負担も少ない。

ルネス金沢は24時間営業をしているので荷物を宅急便で送れば良い。予め、メールで連絡し、確認も貰っていた。前日宿泊は岐阜の格安ビジネスホテル「サンサミット」を予約した。走り旅としてのんびり進みたいので道中では温泉にも入ろうと考えた。調べると時間的に高鷲「湯の平温泉」と上梨「五箇山荘」が入浴するにはちょうど良いタイミングだ。福光ではS上さん、波多パパ&ママのところにも寄ろうと思う。

今年は2月「大村湾一周160kmウルトラマラソン」に昨年に続いて参加、3月の「びわこ畔一周マラニック」はマイアミランドまで参加したが、以前と比べてバテ方が早く、疲れも取れない。そうこうしているうちに4月になった。しかし、体調は今ひとつだ。一週間前に「アクシス」に行くときあまりに身体が張っていたので驚かれた。鍼治療と筋肉を施す強いマッサージをして貰うとかなり楽になった。

## 【前日】

28日も月末で仕事が遅くなった。29日は屋前に家の付近を12kmほど走ってみたが、やはり身体は重かった。途中、A☆さんが企画された滋賀LSDを走る面々と遭遇するかと思っていたが、時間の勘違いで遭うことはなかった。14時前に滋賀を出て、車内から快晴の風景を見ていると気分が良い。最近では中山道を走っており、何度もこの間は車内から見ている風景だが、シロ刈きや田植えの季節になるとまた違った味がある。今年から、田を止めたのでこの風景を見ると一抹の寂しさも感じる。今回はひとりで走るのだから「はじめてのさくら道」に行くような気分だった。岐阜には16時過ぎに着いた。

予約してある「サンサミット」は3800円と安いだけあって、質素なホテルだった。泊まるだけなので一晩過ごせば良い。早く着いたので、ベッドに横になってテレビをつけると偶然にも先週の「さくら道国際ネイチャーラン」を走られたS合さんのことが放映されていた。思わずテレビにクギ付けになった。S合さんの凄まじい挑戦の姿に感動した。S合さんは過去ネイチャーランに9回参加、昨年はリタイヤされたが、それまでの8回は全て完走されていた。また、スパルタスロンやアイアンマンハワイも完走されている方だ。

吹雪の中、身体が大きく傾斜し、バランスが崩れているにも関わらず、それでも前に前に進もうとされているS合さんの形相に心を打たれた。白川郷でタイムオーバー通告時の涙、65歳ながらにして常に高いレベルの目標を持って「挑戦」され続けられているS合さんの言われた言葉、『他人から見て価値がないことでも、やっている本人にしかわからないことがある。やっている本人にとって価値があると思っていることは価値があるのだ』。そして、目指したネイチャーランは世界最高の大会だと話されていた。S合さんの姿を見て、明日からひとりさくら道を走る私には大きなエネルギーを貰えた気がする。

その後、夕食に行くが岐阜駅周辺に店は少なかった。とんかつ屋に入り、ニンニクの入った「スタミナとんかつ」を注文するとなかなか美味しかった。部屋に戻ってからは足のマメ対策のテーピングとアーチ、アキレス腱、腰にキネシオテープを貼る。22時過ぎからウトウトし、早く眠りにつけた。

## 【当日】

アラーム通り、5時に目を覚ます。ディクトンを塗って、カップラーメンとパンを食べ、名鉄の「新岐阜」駅に向かい、6時の始発に乗る。慌ただしかった。乗った名鉄は1車両で路面の部分も多かった。途中から待ち合わせの電車に乗り換えした。日野橋手前からはさくら道のコースと並行するところが多い。走っている人が居ないか捜すが見当たらなかった。春日井のI下さん、名古屋のW部さんが走っているとは聞いていたので気になった。関の小屋名付近は徐々に道路の整備が進んでいた。F井さん達がいつも関さくらエイドを出して下さっていた東海北陸道高架下を越えた先に関駅があった。ここで長良川鉄道に乗り換えする。名鉄より第3セクターの長良川鉄道



の方が座り心地は良かった。車内にひとりデイパックを持ったランナーらしき人がいた。美濃には7時4分に到着。バッグをルネス金沢に送らなければならないのでクロネコヤマトの取扱店を探す。朝早いので店が開いているか心配するが、たまたまスポーツ店が開いており、親切にバッグを入れる袋まで用意して貰った。

その先で美濃の有名な「うだつ」が見られるので進む。卯建(うだつ)とは、もともと火事の際の類焼を防ぐために屋根の両側に作られた防火壁で明治以降になると、本来の防火目的よりも、家格や身分、富の象徴にもなり、ここからよい境遇に恵まれないことを「うだつが上がらない」という慣用句が生まれたという説もある。美濃のうだつの特徴はうだつを綺麗に見せている町家の方にもあり、その町家の構造が屋根より突き出たうだつを目立たせている。つまり軒の揃ったきれいな軒線から突き出たうだつが町並みに立体感を与え、それがうだつを引き立てていると説明にあった。予め、うだつを理解していなかったので、十分に見ないまま先を急いだ。



## 【スタート】

長良川鉄道・美濃市駅前(スタート)

4月29日 7時23分

いつも美濃エイドがあるところからさくら道のコースに入り、下って行く。路面温度は14°Cの表示だった。GW真っ直中とあり、朝早いのが車の量が多い。平日なので通勤の方もかなりいるだろう。今ひとつ身体が重く、暑くなりそうなので先を案じる。いつもA井さんの奥さんがエイドを出して下さるところには冷水が出ているのだが、大会がないとあって店の洗濯機にホースが繋がっていたので飲むことはできず、残念だった。隣にあった水車は溝に水がなく、止まっており、鯉のぼりも風がないので垂れていた。「新立花橋」から「立花トンネル」を越えると車の量は増



え、途切れることなく走っていた。「須原橋」には今年も川幅いっぱい鯉のぼりが吊してあった。残念ながら風がなく、こちらでも垂れていた。「須原トンネル」を越えると間もなく、「郡上市」に表示が変わった。今年3月に美並から高鷲までは市町村合併で郡上市に変わっていたのだ。気温は20°Cまで上昇、暑くなってきた。

道の駅「美並」(10.4km)には8時31分に到着。休憩所には小さな畳の部分があったので地図を見ながら休憩する。畳は良い。過去3年間の思い出が染み込んでいるさくら道を噛みしめながら、進む。暑さのあまり、「根村洞門」の手前の緩い上りで早々に歩き出す。美並は日本のど真ん中、い



わゆる重心でその象徴となる「日本まん真ん中センター」が右の丘の上に見えた。センターのシンボルとなっているのは建物自体を利用した日時計。これは世界最大級の日時計でギネスブックにも申請中だとか。

「旧美並町役場」前のサークルKに寄って一休み。その時、長良川鉄道で出会ったランナーらしき人とすれ違った。どこの駅から走り始めたのかわからないが軽快な足取りだった。飲めるヨーグルトを買う。少し進むと車の後部席から子供が手を振って応援してくれた。夜になるとドライバーの眠気冷ましになるフクロウの目も昼は用無しだ。折角作ったゼッケンがある



ので、ピンクのツツジの横で写真を撮る。「深戸駅前」(20.6km/9時55分)の桜並木は花びらのかけらもなかったが、春になれば良二さんの植えた桜が満開となり、素晴らしい景色と聞く。暑さでもう走れない。

時たま走るが、ほとんど歩いたと思う。長良川、長良川鉄道を見ながら、また頭上の東海北陸道橋桁の高さに恐怖を感じながらもひたすら歩く。郡上の新緑も良いものだ。今までは夜に通過する郡上八幡だが、昼は全然違い賑やかな感じだ。こんなにも違うのか？。左手に「郡上八幡ホテル」があった。ドライブインもあり、立喰いそばを食べる。やっぱりドライブインとはいえ、座ってゆっくりできるのは有り難い。すると便を催した。今日、3回目だ。昨夜から、初めてのさくら道のような緊張感があったが、その影響で腸が詰まっているみたいだ。まだほとんど来ていないだけに、この先、腹の具合が悪くなることを心配する。便は溜まっていたらしく大量に出た。20分ほど休憩し、また進み出すが照り返しと排ガスで暑い。この間は苦しかった。

民家の前に丸太ん棒を彫って作られた「水舟」があったので、顔を洗い、足に水を掛けさせてもらう。流石に水の都郡上だ。ここで右に斜めの旧道に入る。道路工事されている人の横を通り過ぎる私を見て、「美並で走っていたのを見た」と話されているのを聞き、優越感を感じた。歩道で工事されている人を見たが、こちらに移動されていたようだ。あれから17~18kmしか走っていないのに、一般の人から見れば長く感じるのだろう。



### 郡上八幡駅前(29.4km)

5月30日 11時21分



「郡上おどり」提灯の吊り下げられた「郡上八幡駅」で写真を撮り、先に進む。郡上インター高架下を潜るといつも設営されていた郡上八幡エイドの横にサークルKがある。暑いのでアイスクリームを買って、歩きながら食べる。このアイスクリームは袋と密着しており、袋が破れず苦労した。これは破れないのではないかと心配したが、何とか破れ、助かった。小さな子供では破れないだろうと思う。この先は歩道がないので、右側に注意を払って気を付けながら進む。歩道のないところは無理せずに歩いた。

東海北陸道高架下を潜る。東海北陸道は2車線から4車線への拡張工事をしていて、車の通行量はさほど多いと思わないが、何故血税を使ってまで、多額の公共投資をしなければならないのか、工事の様子を見ると腹が立ってきた。少し進むと「郡上八幡」と書かれた格子の案内板があり、間もなく大和に変わるのだろう。その時、道路脇に酒屋があったので缶ビールを買い、歩きながら飲む。道路は渋滞とまではいかないが、車の量は多い、ドライバーから私はどのように見えているのだろうか？。



暑さで体温上昇が激しいので道端にある冷水を頭に、足に掛け、顔を洗いながら進む。一瞬は気持ち良いが、すぐに元に戻る。一旦休憩することにした。公民館の横に長椅子があったので、残っていたクロワッサンを食べて、10分ほど横になる。その頃、民家の庭先で戯れる2匹の猫がいた。おそらく雄と雌だと思いが、ほのぼのとしていたので思わずカメラを向けた。再び進み出すと道路脇には結構店もあり、夜とは感じが違う。そして、「めぐみの農協大和南支店」(39.1km/12時49分)前を通過。昨年までは「おくみの農協」だったが、今年は「めぐみの農協」に変わっていたことに気付く。おくみの方が私は好きだ。そして、ここはいつも夜遅くまでH田よのさんや子供さん達がエイドを開いてくれる場所だ。そういえば、昨日のネイチャーランのTV放映ではピンクのヤッケを着られたH田よのさんも映られていた。ちょうど向かいのガソリンスタンドの方が手を振って、「頑張ってるね」と応援して下さった。しかし、疲れて時たましか走れなかった。気温は24℃まで上がり、空はややどんよりしてきて蒸し暑い。

大和から白鳥に変わり、また東海北陸道高架下を潜る。その先には



「日本土鈴館」があった。ここは日本の土鈴(どれい)1万3千点、郷土玩具2万5千点を収蔵しているそうで、外のショーケースの中には世界の人形が飾ってあった。隣の土産物店の前には大きな招き猫が玄関に置かれていた。前方のはるか彼方に見える山には雪が被っていた。ちょうどその頃、小学生の遠足の列が見えたので走り始める。すれ違うと「頑張ってください」と声を掛けられ、思わず苦笑いする。「油坂峠道路」高架下辺りは道幅が広がって、開けたところだ。白鳥の街に入るとぼたん桜が道端に咲いていた。信号待ちの間にふと横を見ると桜の苗木に「太平洋と日本海を桜でつなごう」と書かれた短尺が吊り下げられていて、映画「さくら」で見たシーン



を思い出す。

長良川にかかる「奥美濃大橋」を渡ると前方頭上には油坂峠道路白鳥インターのロータリーが高くそびえ、下から見上げると怖いような場所にあった。その下を通過して顕彰碑に向かう。顕彰碑への道順はほとんど覚えているが、路地でわかりにくかったので、畑仕事されている地元の方に聞いて教えてもらう。天気が良いので皆さん、畑仕事に精出されていた。熱くなった足に水を掛けながら、顕彰碑に上って行く。いつものことながら、ここの坂がきつい。



### 桜守佐藤良二君顕彰碑(50. 2km)

4月30日 14時36分



初めて見る明るいうちでの「桜守佐藤良二君顕彰碑」は木立の中に春の陽光を受けながら、建っていた。良二さんの顕彰碑の下には岐阜県指定天然記念物「藤路の桜」があり、これは樹齢400年、高さ18m、幹の太さ3.6mの庄川桜と同じエドヒガン桜だった。ここからは白鳥の町が一望できる。この時何故、この場所に顕彰碑が建てられたのか、わかったような気がした。桜守として良二さんにこの丘から故郷白鳥の、あるいは奥美濃の桜の木々を守ってもらいたいとの思いを込めて建てられたのではないか。

坂を下って行くと「民宿てんご」があった。佐藤良二さんの奥さんが営まれている民宿だ。隅には桜の木が植えられていた。映画「さくら」の最後シーン、軒先で奥さん役の田中好子が娘さんと満

開の桜を見上げながら、「桜と一緒におうちゃんが帰ってきた」と言ったのを思い出した。いつもエイドと仮眠所となっていた向小駄良防災センター前を通過すると「神明神社」が見えた。中山道を走っている時、神明神社がたくさんあり、鳥居に疑問を持つようになっていたが、ここの鳥居は角張ったものだった。

再び、国道156号線に戻ったところにあるローソンでヨーグルトとジュースを飲んで休憩するが、まだまだ



暑く、身体は熱を持ったままだ。ここから先は緩く上っている。もう走れない。その頃、道路左側に「西園寺」という真言宗の立派なお寺があった。徐々にではあるが風が冷たくなり始めた。スタートが予定より早かった分、貯金があったが、貯金は使い果たした。この分だと温泉でゆっくりできそうもない。そして、ガス欠状態に陥ってしまったので、道の駅「白鳥」で食事しようかどうか思案する。道路脇の民家の軒先からは冷水が溢れるように出ているので、飲んだり、身体を冷やしたりする。道の駅「白鳥」には15時40分頃に到着。少し休んだ後、時間が中途半端だったので迷った末、食事することにした。売店ではネイチャーランのウインドブレーカーを着た女性が働いていた。玉子丼を注文し、座敷で足を伸ばして食べる。そういえば今日初めてのご飯だった。食べ終わるとまた便を催す。今日で何回目だ、あまりにも多過ぎる。結局30分ほど休んで出発する。

食べたばかりなので歩いていると奥美濃らしい雰囲気のレストランが目についた。そして、長良川鉄道最終の「北濃駅」を通過する。16時12分だった。当初の予定より、30分近く遅れている。気温はまだ22℃もあった。「ウイングヒルズ白鳥」に向かうところで旧道に進むとぼたん桜が土手に咲いており、写真を撮っている人がいた。この頃から上りではあるが元気が出てきたのか、若干走れるようになる。しかし、風はなくなり、また蒸し暑くなっていった。地図を出して、しっかり見ながらこの先にある旧道を探す。明るいのですぐにわかった。夜中とはいえ、昨年まで何故この左折する旧道がわからなかったのか不思議なくらいだ。ぐるっと迂回し、高鷲商工会館前(62.2km/16時51分)で国道156号線を右折し、また旧道へ入る。休んでいると下校する小学生が「こんにちは」と声を掛けてくれた。ここは歩道がなく狭いが、車が意外とよく通る。「湯の平温泉」の方向を示す看板があった。



早く風呂から上がったので、ここで遅れは取り戻せた。

「猪洞橋」で右折し、再び国道156号線に戻る。温泉から出たばかりなのと坂の上りなので当分歩くことにする。18時頃だが、まだ明るく、道路脇の桜が綺麗だ。気温は17℃まで下がっていた。歩道の広い道路を進むと「ダイナランド」が見えて来た。昨年までは「大日岳」という看板もあったように思うが、今年からは大日岳という表示は一切なくなっていた。この先はヘアピンの急な上りの後、長く下って、また上ることになる。徐々に身体が動くようになったので走り出す。2001年初めてのさくら道の時、無茶苦茶急なヘアピンと想像していたところも、それ以降バイパスができて、それほど急とは思わなくなった。慣れだろうか。道の駅「大日岳」までは快調に走れたが、寒く感じてきたので、ロングタイツ、長袖に履き替える。もう日は落ちて、真っ暗闇だ。この先は長い下りが続き、また快調に走れた。「駒ヶ滝」が左手にあり、ここからは上りになる。だいぶ暗くなって来たのでヘッドライトを付ける。分水嶺までの上りはあと1km少しだと思う。



### ひるがの分水嶺(73.5km)

4月30日 19時13分

ようやく上りが終わった。ここは標高876mある。暗い中ではあるが、「分水嶺公園」を見に行く。真っ黒で何も見えないが、「太平洋、日本海」と書かれた石碑ははっきり見える。両側の石碑には詩が刻まれていた。蛭ヶ野は湿原として、リゾート観光地として有名で太平洋に注ぐ長良川と日本海へ流下する庄川の分水嶺となっており、ミズバショウの群落で5月の連休などは多数の人が訪れる。国道に戻り進む。分水嶺公園の先には昨年までN瀬さん

をはじめとする無名会のメンバーの方が「元祖てぬきうどん」をランナーに食べさせて下さったところがあった。一番冷える蛭ヶ野で暖かいうどんを食べられるのは有り難い限りだった。去年は暖房の効いたキャンピングカーの中で仮眠も取らせてもらった。エイドがあって当たり前の場所だったので、何故か殺風景に感じる。

ここから牧戸までは長い下りになる。この先は白川郷のコンビニまで何も食べるところがないので、腹ごしらえしないといけない。蛭ヶ野は標高が高いが民家がかなりあるようだ。犬の散歩をされていた女性から「金沢まで頑張ってください」と声を掛けてもらう。さくら道と書いたゼッケンで金沢まで行くとわかったのだろう。声を掛けて下さるのは年に関係なく、何故か女性ばかりだ。食べてから4時間しか経っていないが、更に腹一杯にしておきたいので、店に入ることにした。居酒屋風の店もあったが、普通の店に入ることにした。メニューにラーメンがあったので注文。ファミレスのような長椅子だったので、靴下を脱ぎ、足を伸ばしてラーメンをゆっくり食べる。なかなか美味しかった。少しでも足の怠さを押さえるため、痛み止めを飲んだ。30分ほど休んだと思う。店を出て、先に進む。今夜は若干曇っているのですが、それほど冷え込まないような感じだ。

高鷲から荘川村に変わった。気温は下がり11℃を示していた。快調に下って行く。昼のグロッキーが嘘のようだ。ここからは6kmほど下らなければならない。途中に外灯に照らされた桜のピンクの花びらが輝いていた。しかし、大夫散っているようだ。蛭ヶ野からはあまり車と出会わなかった。左側を流れる庄川のせせらぎがほど良い音色となって耳に入ってくる。下り切って、牧戸バス停手前の自販機前で休んでいるとフランケンさんから電話があり、「今どこまで来た」と尋ねられた。「今、牧戸ですが、予定より1時間ほど早いです」と応える。「明日、ルネスに枸杞さんファミリーも来られるから、会いましょう」と言われた。牧戸バス停(82.9km/21時5分)を過ぎると車の量が一気に増え出した。高山方面から来る車がここで合流しているようだ。ここで反射効果のあるウインドブレーカーを着る。

牧戸まで頑張ったので休みながら荘川桜を目指す。走ったり、歩いたりを繰り返しているうちに「御母衣ダム湖」に掛かる「岩瀬橋」を渡る。ここは路肩が狭いので、車が来ると立ち止まるのが一番安全だ。更に3つの「岩瀬トンネル」も路肩が狭く、路面も粗い。何だかんだしながら、「ドライブインみぼろ湖」が見えたので、自販機に立ち寄る。椅子に座ってしっかり休む。横にエンジンをかけた車に若い男女の姿があったので、早く立ち去らないといけないと思いながらもゆっくりしてしまいました。ここからは緩いアップダウンが続く。上りは歩き、下りになると走るが、車が来ると路肩に寄るので余り走れなかった。「水没記念碑」を越えてから、2つの橋を渡ると「荘川桜」と頭に入っている。カーブの先の外灯が見えるところに荘川桜が見え始めた。

### 荘川桜(88.7km)

4月30日 22時04分

残念ながらライトアップはされていなかった。少し「荘川桜」について書いてみよう。岐阜県大野郡荘川村。ここに2本の老いた桜が御母衣ダム湖の側に生きている。樹高約20m、幹周約6m、樹齢450余年。四方を山に囲まれた御母衣湖畔にたたずむこの桜には奇蹟の物語がある。御母衣ダム建設にともない「光輪寺」と「照蓮寺」が湖底に沈むことになった。春になると村人の眼を楽ませていたのが2本の老桜であった。美しい桜が水没することを憂えた男が1人、移植のために奔走した。そのひたむきな思いに「桜男」と呼ばれた人物が共鳴し、世界の植樹史上、未だかつて例のない巨桜の大移植が行われた。多くの人々の気持ちが奇蹟を生んだ。この「荘川桜」の運命が語るもの。それは自然の力強さと自然をいと惜しむ人間の真心。桜は現在もいにしえと変わらず壮大に咲き誇っている。このことは2003年春、NHKの「プロジェクトX」でも放送された。

国鉄バス名金線(名古屋～金沢)のバスの車掌をしていた佐藤良二さんは蘇った荘川桜の幹にしがみつき、泣き崩れていた老婆の姿に感動し、何



か人様の役に立つことができないかと思いついたのが桜の植樹だった。名金線に桜のトンネルを作って、人様に喜んで貰おうと思ったからだ。物心つく以前の幼い頃に母親を亡くし、男手ひとつで3人の子供を育ててくれた父親から「ボロを着て奉公せよ。大人になったら人様のためのなることをやれ」と言われ続けたのが発端だったのかもしれない。



夜の莊川桜は初めなので、何か感じが違う。花びらはかなり地面に落ちているが、「樹齢450年の莊川桜」は夜でも雄大で素晴らしい樹木だ。気温は10℃まで下がっているが、寒くはない。その時、桜を見上げられている男女の姿があり、誰かと思うと何と兵庫のF井さんご夫妻ではないか。昨年、F井さんとは高鷲から莊川桜まで一緒した。何という偶然か、不思議な縁というか、さくら道だからという思いがした。F井さんは奥さんと信州に遊びに行かれる途中で、朝まで車中泊され、朝の莊川桜を見てから、出発すると話されたが、一年振りの再会、しかも莊川桜での出会いは最高に嬉しかった。F井さんも喜んで下さった。蛭ヶ野の下りで「ひとりさくら道」と書いたゼッケンを付けた人が走っているなあと思われたそうだ。「昨年は蛭ヶ野の下りで変な走り方をさせてしまったため、後半潰れさせてすみませんでした」と誤ると、F井さんは「練習ができていなかったのであんなものですよ」と言われた。奥さん共々、愛想よく、「飲み物や食べ物は入りませんか」とおっしゃって下さったが、食べたくなかったので、ペットボトルの紅茶を1本頂いた。もう22時を回っているが、莊川桜を見に来られている方が10人以上いた。やはり凄い。F井さんと20分ほど世間話をして、お別れした。



ここから先も車は多く、路肩が狭い。溝に落ちる心配があるので、大きな車が来ると立ち止まって通過するのを待った。「尾神橋」は路肩が狭いので、特に注意して渡った。昼でも吸い込まれそうになる橋だ。この辺りからは洞門が多い。毎年、凍結防止に長くなっているような気がする。ちょうど歩いていると暗闇の中ではあるが土手にカモシカと思われる動物を発見。こちらの方に近づいてくる感じがしたので、走って逃げる。やはり一人だとこのような場合怖くなる。更に気温は下がり、8℃を示していた。約1kmある「福島保木トンネル」を通過する。昨年、出たところで視覚障害者のM本さん達がエイドを出して下さっていたことを思い出す。M本さんはH井さんの伴走で萩往還250kmを今年完踏された。相変わらず、飛ばす車が多く、神経を使う。そして、幾つかの洞門を越え、「福島第2トンネル」手前からダム湖側に逸れると「御母衣ダム」が見えた。ダム横から「福島第3トンネル」にいつも通り入る。



### 御母衣ダム(96.7km)

4月30日 23時28分

「福島第3トンネル」は路肩が狭く、路面は粗く濡れていた。急いでトンネルを出ると急な下りに変わる。下り切って横を見ると過去のさくら道ではいつも朝陽に照らされた「御母衣ダム」があった。御母衣ダムは庄川をせきとめて造られた高さ131m、長さ105mの巨大なダムでロックフィル式といって石と粘土だけで出来ている日本三大ダムのひとつ。

ややガス欠気味になっていた。白川郷までは20km近くあるが、その間自販機はあっても食べる場所はひとつもない。心配だ。これから先、真正面に白山が綺麗に見えるところだが、人気のない夜道は辛い。牧の集落で栄養補給しないとこの先を乗り切れないと思い、自販機で飲み物を2本飲んだ。「白山登山口」を越えたところからバイパスができていた。今まで通り、右に進み、「平瀬温泉」に入っていく。平瀬T字路(101.7km/0時14分)は0時を回ったところだ。過去、日が昇っているにも関わらず平瀬温泉がここだとは気が付かなかった。不思議だ。疲れていたからだろうか。温泉旅館が並んでいる。中には温泉の湯を玄関で流しており、柄杓で掬うことができるようにしてあった。夜の平瀬温泉も良いところだ。平瀬の集落が終わったところでバイパスに合流。ここからは綺麗な歩道になっていた。「新平瀬トンネル」手前辺りからは今までと同じだ。

この間も眠気を防止するために結構走った。しかし、疲れと眠気がひどくなってきたので「保木脇」の集落で母屋と離れの間に隙間のある家があったのでその隙間で休むことにした。屋根があるので好都合だった。地面は大きめの石ころだが、冷たくなく、ちょうど良い具合で気持ち良かった。10分ほど目を瞑って仮眠する。「野谷橋」は尾

神橋と違って路肩が若干広い分、進みやすい。この辺りは昼なら、白山が真正面に見えるところだ。ここからは徐々に下って、白川郷に進む。「鳩谷ダム湖」が右にあり、その先の「鳩谷ダム」の水力発電所の照明が明々と輝いていた。いつもは朝10時頃だったのでわからないが、昼のように明るい。急な下りが続くので走れるかと思っただ、歩きも入りかなり厳しかった。それとかなり眠く、集中力がなくなっていた。下り切ったところで橋があり、その先には綺麗な公衆トイレがある。ここで仮眠しようかと思っただ、ダンプがエンジンを掛けて止まっており、運転手はこれから仕事なのか、歯を磨いていた。若い運転手だったが、「どこまで行くの」と聞かれ、「金沢まで」と言うと「気を付けて走ってね」と暖かい言葉を掛けてくれた。トイレ内で仮眠しようとしたが、眠れなかった。

### 白川郷分岐「合掌集落」(113.4km) 5月1日 2時12分

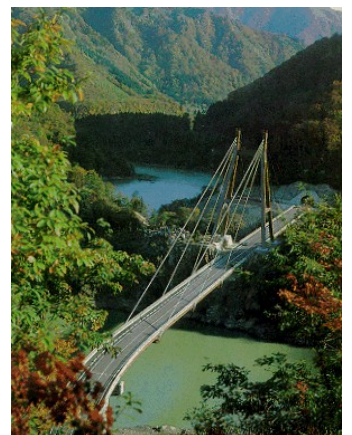
辛抱できないくらい眠くなってきた。やや足もフラフラしている。観光用の合掌造りの軒先で横になる。ナイロンの絨毯で滑り止めとして貼ってあった。冷えないのでちょうど良く、10分ほど目を瞑って休んだ。大した効果は期待しないが、それでも休んだことで幾らか楽になるだろう。「白川郷合掌集落」観光の中心地、荻町を進むが、夜中は静かすぎて何かが違う。コンビニまでが遠い。「白川橋」を渡り切ったところにタイムリーが見え、ようやく食べ物に有り付けた。カップラーメンとヨーグルトを購入。外は寒いので「店内で食べても良い」と言ってもらえ、店の隅に尻を降ろし、食べる。カップラーメンの麺がしっくり来ず、胃がもたれそう。食べるのに時間が掛かった。ヨーグルトも食べにくい。約42kmの間、何も固形物を食べていない反動のようだ。胃薬を飲む。25分ほど休んで出発。ここからは旧道に入るが、1kmほどして先ほど食べたものを吐いてしまった。不安が先走る。



道の駅「白川郷」を越えると左にカーブがあり、「飯島トンネル(1873m)」に入る。歩道は雪解け水で足元が悪い。先ほど吐いたばかりなので当分歩道を歩くことにした。歩いているうちにコックリ、コックリ、フラフラしてきた。やばいと思いながらも、トンネル内は歩くしかない。次の「新内戸トンネル(1322m)」も歩道の足元が悪かった。途中から、右側の車道に降りて走り出すことにした。幸いにも車の量はかなり少なくなっていた。白川郷方面より五箇山方面に向かう方が多いようで、走るには更に都合が良い。この方が眠気は押さえられた。洞門が多いので、こちらでは左端を進んだ。カーブが多く、路肩が狭いので気をつかう。夜のトンネル内は外より暖かく、汗がたくさん出る。新内戸トンネルを出た先の「椿原橋」(122.1km)は4時11分に通過。若干だが空は明るくなってきた気配だ。次から次へと洞門がある。明るければ雄大な眺めが見られる「飛越峽合掌ライン」も暗闇の中では何もわからない。「加須良トンネル(1038m)」の歩道は乾いていた。トンネル内ではかなり走り、トンネルを出てからも下りは走れたが、上りは必ず歩くことにした。気分の問題だが、これも身体や内臓を疲れさせないコツだ。

「合掌大橋」(126.9km/4時54分)に差し掛かった頃、空は完全に明るくなっていた。もう5時前だ。合掌大橋は斜張橋で橋名はこの橋の塔が合掌造りを模したことに由来するそうだ。やや肌寒いが何とも気持ち良い空気だ。昨年、この先にあ

ったチーム黒ひげのエイドではもの凄い風で飛ばされそうになったことを思い出しながら進む。山肌の谷の部分には残雪がある。橋を渡る毎に岐阜県と富山県が交互になる不思議な地形だ。「飛越橋」「成出橋」を渡ると長い下りに変わる。夜が明けて、元気が出て来た。更に橋は「小白川橋」「火の川橋」と続く。一時の眠さは峠を越したようだ。間もなく道の駅「上平ささら館」だ。昨年までは「たんぼぼ」で名物「五箇山豆腐丼」を食べることを楽しみにしていた。まだ朝5時半とあって、店は開いていないが車は結構駐車していた。長椅子で休もうと思うとこ



ここで一夜を明かし、朝食の準備をしている人がいて、座れなかった。

歩いていると「行徳寺」の前で年輩の女性と話をする。先週のネイチャーランではささら館でエイドを手伝わっていたそうで、大変な天気だったそうで、前の「行徳寺は由緒あるお寺」と教えて下さった。行徳寺は400年前、蓮如上人の導きで五箇山に真宗を布教した赤尾道宗が開基したお寺で、大きな傘をかぶったような茅葺きの楼門は如何にも秘境の山寺の風情がある。行徳寺の横には国の重要文化財である合掌造りの「岩崎家」が並んでいる。小さな男の子が居るのか鯉のぼりが建てられていた。こちらは300年の歴史があるそうだ。新緑の中に合掌造りの何ともいえない落ち着いた





が良い。少し進むとひとつ目の「民謡歩道」がある。こちらは「こもりん節」「といちんさ節」「お小夜節」「五箇山追分節」の中から選ぶことができ、歩道を歩いている間、民謡がスピーカーを通して響いてくる。

ここからは緩いが上りが延々と続く。東海北陸道高架の五箇山インターを越えてしばらく進むと「五箇山青少年旅行村」と「管沼合掌集落」が庄川沿いの眼下に現れる。管沼合掌集落は合掌造りが朝日を浴びて、綺麗に光っている。何度見ても、素晴らしい眺めだ。そして、上平村役



場前を通過。左手には「くろば温泉」が見えるが、まだ営業前だ。小原ダム湖で道路脇にぼたん桜が咲いていた。歩道脇には「お小夜自殺の地」という標柱が建っていた。これは遊女お小夜が禁断の恋に落ち、身ごもって最後は庄川に身を投げたという哀話があるそうだ。庄川に掛かる「小原橋」も「民謡歩道」でこちらは1曲だけ聞ける。「湯出島橋」を渡ると間もなく上梨

の「こきりこの里」だ。

2回目の温泉「五箇山荘」は案内が手前からあってわかりやすかった。庄川を渡った小高い山側にあり、上るのが辛かった。五箇山荘はGWとあって宿泊客でいっぱいだった。HPには外来の温泉利用は7時半からと書いてあったが、それよりも10分ほど早く着いてしまった。しかし、入浴OKということで助かった。料金は400円と安い。泉質は単純泉で普通の湯と変わりなく、若干、湯温が高かったので疲れが取れた気がしなかった。長袖、ロングタイツから半袖、ランパンに着替える。湯から上がってからはロビーで新聞を読みながら、休んだ。昨日より一般社会と疎遠になっているので世の中で何が起きているかわからない。新聞の内容もぼけているように思えた。結局、55分休んだ。

五箇山荘を後にして、コース上に戻る。ちょうど8時も回り、喫茶店がオープンしていたのでカレーライスを注文する。ウルトラにはカレーやラーメンが胃に良い感じだ。久しぶりのご飯は美味しい。外はカンカン照りで今日も暑くなりそう。五箇山を下ってからが心配になってきた。真正面には国の重要文化財である「村上家」がある。合掌造りながら1重4階立て構造になっている。村上家は一向宗門徒と織田勢が戦った石山合戦のころに建てられたと伝えられ、建築手法からみると江戸中期を遡らないころともいわれているが、戦国時代の武家造りから書院造りに移行する過渡期の様子を示すなど多くの古風、古式の遺構がそのまま残っているのは全国にもその比を見ないそうだ。合掌部分はカスガイなど金物を一切使わず、縄とネソ木で結束し、壁はすべて板壁、そのほか用材が太く柱間が七尺、八尺などと幅広く、この地方の有力な生産農家の構えを備えていると説明にあった。



上平の方に目を向けると真っ白な頭だけ出した白山が見えた。何度もさくら道で見ている白山は富士山、立山と共に「日本三名山」だと後で知った。その先には白い鳥居の「白山神社」があった。ここは別名「白山宮本殿」というらしい。造建年代は1502年だそうで富山県内最古の建築物ともいわれている。墓股(かえるまた)も残っているそうで、宇治の「宇治上神社」も墓股では有名なところだ。1kmほどある「上梨トンネル」に入ると急にヒンヤリした。そして、風も強い。外とだいぶ違って、何故か変に思えた。ここから下梨まではもう少した。自転車坂で坂を勢いよく上る少年達が見えた。あんな



元気が欲しい。

下梨(143.1km)

5月1日 9時06分

ようやく下梨に到着できた。さくら道の時はいつもmasaさんご夫婦がエイドを担当して下さるところだ。ここでは毎年有名な「五箇山豆腐」も頂けた。ここで国道156号線を左折し、国道304号線になる。ここから五箇山の急坂が続く。一番苦しいところだ。日差しが強く、暑い。車の数がどんどん増え出した。振り向くと白山が上梨よりさらに大きく見える。「8月末の立山登山マラニックに参加予定だが、白山にも登ってみたいなあ」と思う。道端で民家の軒先から出ている冷水で顔を洗い、足に掛ける。

坂の途中に左折すると「越中五箇山相倉合掌集落」方面に行けると表示があった。道中にある白川郷、管沼、相倉のセットで合掌造り集落の世界遺産になっている。急カーブを上って行くと自販機があった。冷たい物が飲めると思うと故障中と紙が貼ってあり、愕然とする。もう城端まで飲めないのか。やや冷たい風が吹き始め、山の上の部分にはガスが出て来た。梨谷トンネル手前に休憩所があり、自販機が見えた。この自販機を使うのは初めてだ。助かった。「梨谷トンネル(812m)」は歩いたり、走ったりするが、冷気で鳥肌が立つくらい寒かった。次に深い谷に掛かる真っ赤な「梨谷大橋」が見えた。絵になる景色だ。ガスが掛かってきた。寒い。長袖に着替えた方が良いか考えるが、そのまま進むことにした。この橋の路



肩は狭く、下を見ると深い谷に吸い込まれそうになるので気を遣う。橋を渡り切ると全長3072mの「五箇山トンネル」だ。入るや否や、無茶苦茶寒い。風の通り道になっている。ガスも入って来る。真冬並みの寒さだ。これは歩けない。歩道の状態は雪解け水でかなり悪い。昨年同様、車道に出て走り、対向車のライトが見えて近づいて来ると歩道に上るパターンを繰り返した。おそらくペースはキロ6分少しくらいだったと思う。中間の洞門の部分で外を見るとガスで覆われていた。ようやくトンネルから脱出(151.7km/10時30分)できたが、何と山はガスの中だった。細かい霧雨状態といって良い。気温は8°Cを示していた。ここはいつもA井さんの奥さんのエイドがあり、去年はK田さんもいらした。トンネルを通過し、これから先、下りの鋭気にするには最高のエイドだったことを思い出す。トンネル内のペースアップで疲れ、下り出すと結構辛くなる。寒い霧雨の中、ひたすら下るしかない。

行けども行けどもガスは薄れる気配がなく、むしろ雨に変わりそうなどんよりとした天気が変わってきた。歩道がないので道路脇を走りながら、時々止まっては休み、下って行く。車の量はかなり多い。下り切ると城端の集落が見えてきた。大鋸屋の手前の自販機で缶コーヒーを飲んで休んでいると隣家の方と思われる60歳代の年輩の女性が通り掛けられたので話をする。さくら道を走っているという話から始まり、「どこから来たの?」と聞かれたので「滋賀」と言うと「滋賀のどこ?」と顔を突き出して聞いて来られた。「湖南方面です」と応えると「私は八日市出身なのよ」と言われ、「故郷滋賀の人に会えるなんて嬉しい。滅多に会うことはない」と喜んで下さった。「さくら道では夜になりますが、毎年ここを通っていました」と話した。ここを滋賀の人が通ることは少ないし、なかなか実家にも帰れないそうだ。年を取ると望郷の念が強くなるとおっしゃられ、私もこのような場所で会えるのは一期一会ではないかと痛感した。

だいが走ったので少し休みながら、長袖を着ようか、着よまいか、どうしようかと思ひながら進む。長く歩いていると寒くなるので、走るが多くなってきた。昼前になり、そろそろ何か食べないといけな。城端には店も多いので探し始める。城端は「越中の小京都」と呼ばれ、人工的な部分もあるが街の雰囲気は歴史を感じさせてくれる。「城端曳山祭」は300年の歴史を数えるそうだ。路地の左の奥まったところに濃い茶色瓦の「城端別院善徳寺」という由緒あるお寺が見えた。文明3年(1471年)、加州に蓮如上人が開き、栄禄2年(1559年)に当地に移築された真宗大谷派の名刹。大伽藍は、建物の重厚さもさる事ながら、歴史の重みを十分に感じさせるお寺だ。左に折れて「城端橋」を渡る。食べ処を探していると定食屋があったので入る。11時半過ぎだった。焼き鯖定食を注文する。愛想の悪い店主で、結構待たされた。走っている最中なので、竹の子の煮物などもあったが、

行けども行けどもガスは薄れる気配がなく、むしろ雨に変わりそうなどんよりとした天気が変わってきた。歩道がないので道路脇を走りながら、時々止まっては休み、下って行く。車の量はかなり多い。下り切ると城端の集落が見えてきた。大鋸屋の手前の自販機で缶コーヒーを飲んで休んでいると隣家の方と思われる60歳代の年輩の女性が通り掛けられたので話をする。さくら道を走っているという話から始まり、「どこから来たの?」と聞かれたので「滋賀」と言うと「滋賀のどこ?」と顔を突き出して聞いて来られた。「湖南方面です」と応えると「私は八日市出身なのよ」と言われ、「故郷滋賀の人に会えるなんて嬉しい。滅多に会うことはない」と喜んで下さった。「さくら道では夜になりますが、毎年ここを通っていました」と話した。ここを滋賀の人が通ることは少ないし、なかなか実家にも帰れないそうだ。年を取ると望郷の念が強くなるとおっしゃられ、私もこのような場所で会えるのは一期一会ではないかと痛感した。

だいが走ったので少し休みながら、長袖を着ようか、着よまいか、どうしようかと思ひながら進む。長く歩いていると寒くなるので、走るが多くなってきた。昼前になり、そろそろ何か食べないといけな。城端には店も多いので探し始める。城端は「越中の小京都」と呼ばれ、人工的な部分もあるが街の雰囲気は歴史を感じさせてくれる。「城端曳山祭」は300年の歴史を数えるそうだ。路地の左の奥まったところに濃い茶色瓦の「城端別院善徳寺」という由緒あるお寺が見えた。文明3年(1471年)、加州に蓮如上人が開き、栄禄2年(1559年)に当地に移築された真宗大谷派の名刹。大伽藍は、建物の重厚さもさる事ながら、歴史の重みを十分に感じさせるお寺だ。左に折れて「城端橋」を渡る。食べ処を探していると定食屋があったので入る。11時半過ぎだった。焼き鯖定食を注文する。愛想の悪い店主で、結構待たされた。走っている最中なので、竹の子の煮物などもあったが、



消化の良い物だけを食べる。飲みたかったみそ汁がやけどしそうになるくらい熱くて手を付けずに残した。結局、ご飯と焼き鯖だけ食べた。悪く察すると、「汗くさい奴が店に入りおって」とばかりにみそ汁は嫌がらせともとれた。考え過ぎか。25分くらいで店を出て、福光を目指す。

福光町(160.9km)には12時6分に入る。福光インターを越え、走り歩きを繰り返す。相変わらず空はどんよりしているが、雨は大丈夫みたいだ。いつもエイドを出して下さっていた「松島燃糸福光工場」が道路脇にあった。その先のJR城端線と並行した国道304号線の歩道は凹凸が続き、走りにくい。左に立派な福光町役場があり、その先の信号を左折、「坂上松華堂」に到着。S上さんは不在だったが、デイパックに入れて持参した土産を家族の方にお渡しし、波多パパ&ママのお店の場所を聞いて先に進む。

### 福光橋(165.0km)

5月1日 12時42分

この先、バイパス沿いにショッピングセンターにあるそうで、「福光橋」は渡らずに川沿いに真っ直ぐ進み、左折したところがバイパスだった。歩道の広い道路を進むと「ショッピングセンター楽蔵グリーンモール福光」が見えたので恐る恐る店内に入って行く。波多ママは2回ほどさくら道で見たことはあるが、実際は波多パパ&ママとは初対面と言ってよい。入口の横にクスリと化粧品の「やはたや」があった。お二人ともカウンターにおられ、笑顔で迎えて下さった。波多パパ&ママと世間話をしながら、デイパックに入れて持って来たお土産を渡す。波多パパ&ママは「それぞれのさくら道」を走られている方々を事前に知り、紙に書かれていた。その中で私が一番早い訪問だったと話して下さった。熱いお茶を頂いていると「土産の御礼を言いたい」とS上さんも来られた。これから先のおやつにとお餅を下さった。輪島から走られている、ゆのさんから連絡があり、1時間ほど前に森本まで来られたようで「眠いので横になる」と言われたそうだ。波多パパは私はもっと背が低いと思われていたみたいだった。波多パパ&ママと一緒に写真を撮り、お店を出ると最後まで見送って下さった。40分くらい休ませて貰ったと思う。



その先でさくら道のコースと合流。道の駅「なんと一福茶屋」を越え、県境を目指す。「華山温泉ホテル」前辺りで風が冷たくなってきたので長袖に着替える。いつもこの辺りからは眠く、辛い道のりになるが、明るいとはやっぱり良い。すると向こうの方で手を振っている方がいる。私も手を降る。ホリさんだ。昨年甲州夢街道で応援に来て下さった時以来の再会。今日、名古屋から走り始めた巨人軍団のさくら道サポートを長浜のT口さんご夫婦達とされるために来られた。さくら道か、甲州夢街道でなければ会えないお一人だ。

「新蔵原トンネル」は完全に歩いた。さらに緩いアップダウンが続く中を進む。上りは完全に歩き、下りになると走れたが、長く休んでいる割には疲れがひどいと感じる。もうそろそろ、ゆのさんに会える頃だ。すると向こうからその姿が見えた。ホリさん同様、甲州夢街道以来の再会だ。握手し、写真を撮り合う。名古屋のW部さんと森本付近ですれ違ったと話され、私もルネスでW部さんとお会いできるかもしれないと思った。これから波多パパ&ママの所に向かわれるそうだ。やや青空も見え、暑くなってきた。車が結構多くなっていた。赤の橋が見え、右にカーブすると間もなく県境への上りになる。歩道のない道なので頑張って歩いて上るが車が多いため、気を遣う。峠の手前が富山・石川県境になる。さらに通る車の数は多くなっていた。ルネスまであと24kmだ。



### 富山・石川県境(175.3km)

5月1日 15時06分

かなり疲れているが、この先は長い下りが続くので走り出せた。路肩は狭いので待避所で腰を下ろし、S上さんから頂いたよもぎ餅を食べ、疲れを解消しようと痛み止めを飲む。以降、何とか古屋谷町までは走ろうと決意する。走り出すとペースアップできた。この辺りでまた太陽が出てまた暑くなっていたが、汗は出尽くしたのか、あまりなくなっていた。半袖にしようかどうか迷った。ここから森本までは長い。時々走るが、大部分は歩いた。金沢中心街が近くなり、車の量が多くなり始めた。道路脇の水田では田植えが始まっている。昨年までなら、さくら道から帰ると田植えが待っていたが、今年から田を作ってもらうことにしたので、その分身体は楽だ。森本近くになり、車がやや停滞してきたので格好を付けるために走り出す。

森本T字路(186.3km)は16時42分に通過。ここからは長い長い13km余りになる。金沢の市街地に入ると一気に車の数も増え、道路はやや渋滞気味になっていた。いつもは真夜中なので雰囲気は違い、戸惑った。歩道にも人が多く、避けながら進む。先ほどよりも風が出始め、空もやや曇り出した。若干寒く感じるようになってきた。車から見られているので、急に走り出したり、また歩いたりを繰り返す。それにしても兼六園までは長く感じる。実際、ほぼ直線で6km近くあるのでと長いはずだ。交差点の信号に掛かるたびに地名と地図を見ながら、全然進ん

でないことにやきもきする。「浅野川」に掛かる「浅野川大橋」を渡り、橋場交差点を左折すると間もなく兼六園だ。兼六園下で道路を横断するが、観光客が多い。紺屋坂を上ると右の堀の向こうには「金沢城」が見える。桜並木の一番下の方に佐藤良二さんの1500本目に植えられた「佐藤桜」がある。探しているとようやく見つかった。

**兼六園・1500本佐藤桜(192. 9km) 5月1日 17時45分**



左には看板があり、佐藤良二さんを称える内容が書かれていた。「佐藤桜 良二さんは美濃白鳥の国鉄バスの車掌。金沢から名古屋まで260キロに及ぶ名金線に乗務していました。いつかこのバス路線を桜のトンネルにしようかと決心し、永年にわたって桜を植え続けてきましたが、昭和52年、47歳の若さで亡くなりました。春がくるたびに植樹された



多くの桜は悲願をよそにすばらしい生き方をした良二さんを称えるかのようにみごとに咲いてくれます」と書かれていた。先日行われたネイチャーランはこの1500本佐藤桜にタッチするとゴールだ。

この先はルネスを目指すが見えませんがランパンではかなり寒くなってきた。歩道は人が多いが、かき分けて進む。うっかり香林坊の信号の手前で右折してしまい、行き止まりだったので、正規のコースに戻る。むさし、むさし西までは人が多いので歩いたが、もう寒いので走ることにした。JR高架下を越え、二口町までがえらい早く感じた。走っていると違うものだ。ここで右折し、真っ直ぐに2.5kmほど進むとルネス金沢に着く。フランケンさんの留守電に連絡し、現在位置を教える。この通りは金沢駅の裏側通りになるのか、車の数がやや少なく感じた。坂になった「七ツ屋大橋」を越え、元気を出してルネスを目指す。ルネスの入口を示す点滅灯が見えて来た。右折し、「ルネス金沢」の正面に向かう。数段の階段を上って、ひとりさくら道のゴールだ。



**ルネス金沢(199. 6km) 5月1日 18時48分**

誰も迎えてくれる人のいないゴールだったが、充実した2日間だったと思う。時間は35時間25分。所要時間が目的ではなく、さくら道に対する思いで走ったが、予想は20時から21時着だったので以外に早かったと思う。心配だった荷物は届いていた。受付の方から「お疲れ様でした」と声を掛けてもらった時、「ゴールしたんだなあ」と思った。一晩だけなので疲労は少なく感じた。ルネスはさくら道の時と違い、GWの土曜日夜とあって人が多かった。いつものように絨毯のフロアで荷物を広げて整理する。すると茨城のペラペラ酒井さんの姿があった。知らなかった。「家族と来られているのですか？」と聞くと「明日朝7時から逆さくら道を走る」と言われた。ここにもそれぞれのさくら道の方がいらした。その後、名古屋のK林さんから「おおひらさん」と声を掛けてもらう。去年の甲州夢街道でN平さんと親しいと紹介してもらい一緒に写真を撮ってもらった。しかし、私はK林さんとわからなかった。「明日から、ペラペラ酒井さんのサポートをするために泊まっている」と話された。

体温が下がって来たので温泉に浸かる。水風呂と交互に入ると疲れが抜ける感じになる。不思議と筋肉痛はほとんどない。その後、生姜焼き定食に餃子、生ビールで夕食。どうもビールがゴクゴク飲めない。仮眠室は満席状態、しかも暑かった。しかし、リクライニングの椅子が空いたので、1時間ほど熟睡しているとフランケンさんから、「今ルネスに着いた」と電話が入ったのでお迎えに行く。フランケンさん、枸杞さん、ペラペラ酒井さんと絨毯の上で足を伸ばし、1時間ほど世間話をし、フランケンさんはそこで眠っておられたので、枸杞さんファミリーと生ビールで乾杯。もう0時を回っていた。その後、いつも朝まで寝る通路で朝5時まで寝ていた。

朝風呂に入り、待ち侘びた朝7時から朝食バイキングで腹一杯食べる。朝便は真っ黒な血便になっていた。やはり1日目の暑さが響いたのか。9時過ぎのルネスのバスで金沢駅に向かう。9時59分のサンダーバードに乗り、12時6分に京都着。GWの土曜日朝とあって、サンダーバードの自由席はほぼ満席だった。結局、13時に家に着いたが、夕方18時から神社祭のため、朝まで御輿当番が当たり、1日置いてまた徹夜だったので、身体の疲れがなかなか取れず、走り出すまで1週間要した。

## 【ひとりさくら道を終えて】

ひとりで走る場合、完全なノンサポートの走り旅になる。自己責任のリスクも大きい。夜中、食べるところがないのは過去3回さくら道を走ったとはいえ、大会とは違うということを肝に銘じないといけないとつくづく感じた。今回、蛭ヶ野から白川郷、次は上梨まで何も食べるところがなかった。蛭ヶ野がもう少し早く、上梨で温泉に入らなかったら、白川郷の次は44km先の城端だった。いくら何でも飲み物だけで持つ距離ではない。あとでパンや吸収の早いチョコレート等を持つべきだと思った。

ひとりで走ることのリスクは別にすると3年間のさくら道でゆっくりと見られなかったところ、夜に通過してわからなかったところが全てではないにしろ、たくさん見ることができ、逢いたかったS上さんや波多パパ&ママにもお会いでき、また「それぞれのさくら道」を走られていたゆのさんとも道中お会いできた。ペラペラ酒井さん、K林さんとも甲州夢街道以来の再会、フランケンさん、枸杞さんとは琵琶湖以来の再会で一緒にビールも飲めた。ここにも「ころがひとつになるさくら道」があった。静かに振り返ってみると有意義且つ、さらに違ったさくら道を知ることができた2日間だった。さくら道はどうしてこんなに優しいのだろうと思ってしまう。

佐藤良二さんのさくら道には「清貧」という言葉が似合う。ここを通過している時だけかもしれないが、すがすがしく清らかになるようで、心も豊かにしてくれるように思えてならない。こんな心をいつも持ち続けたいと思うのだが。

帰ってから思った。確かに「さくら道270kmウルトラマラソン」は2003年で終幕した。この先、復活を待望するが、私はウルトラマラソンではなく、「さくら道」という桜と自然と人との出会いこそが本当のさくら道ではないかと思った。私にはさくら道を初めて走った2001年から、佐藤良二さんのさくら道だったし、その「さくら道を探そう、知ろう」と思って走った。今年ひとりで走っても何ら変わらなかった。さくら道はやっぱりさくら道だった。後日、海宝さんと電話でお話したが、「もう私の出る幕は終わった。さくら道270kmウルトラマラソンとしてスタートしたが、今年のようにそれぞれのさくら道が様々な形で行われ、それをサポート、応援される方がたくさんいることで、当初の主旨であるひとりひとりが主催するさくら道は今年完全に定着したと思う。おそらくさくら道を越える大会は今後、もう現れることがないと思う。私もさくら道があったからこそ、成長できたし、いろいろな大会運営がスムーズに行えるようになった。さくら道の素晴らしいところはマラソンではなく、人と人、人と自然との出会い、それも永遠に続く出会いであることだろう」とおっしゃられた。同感だ。

2004年、「ひとりさくら道200km」は終わり、また来年どんなさくら道になるのか楽しみでならない。どんなさくら道にしようかと思っている。都合が付けば「巨人軍団」のさくら道に合流するのも良いだろう。さくら道が縁で多くの方々とお会いできた。この出会いを大切に、またさくら道に戻って来たい。

## 太平洋と日本海を桜でつなごう

